

2023年7月6日

ウェザーニュース、「ゲリラ雷雨」の予想発生回数を47都道府県別に発表  
ゲリラ雷雨の総発生回数は5.7万回、ピークは8月中旬～9月上旬  
～東京都で680回、愛知県で790回、大阪府で240回の発生予想～

株式会社ウェザーニュース(本社:千葉市美浜区、代表取締役社長:草開千仁)は、突発的かつ局地的に激しい雨や落雷をもたらす「ゲリラ雷雨」(※1)に対し、事前対策への意識を高め被害軽減につなげるため、「ゲリラ雷雨傾向 2023」を発表しました。7～9月のゲリラ雷雨は、全国でおよそ57,000回発生する予想です。昨年よりも発生回数が少なくなる予想ですが、過去5年平均と比べるとほぼ同数となるため注意が必要です。8月中旬から9月上旬が発生のピークとなる見通しです。随時最新の雨情報をご確認ください。

毎年、突然の激しい雨や落雷による被害が全国各地で発生しています。ウェザーニュースでは、少しでも被害を減らすべく、継続的に情報を発信していきます。

「ゲリラ雷雨傾向 2023」一般向けページはこちら

ウェザーニュースウェブサイト「ゲリラ雷雨傾向 2023」  
<https://weathernews.jp/s/topics/202307/050325/>

#### ◆ ゲリラ雷雨発生傾向 2023

<発生回数:全国の総発生回数は約5.7万回>

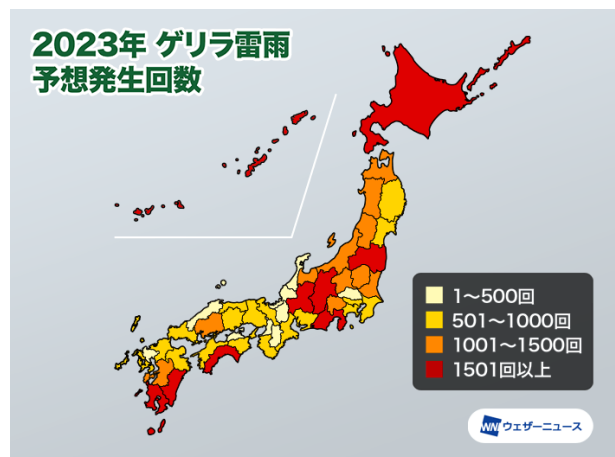
2023年7～9月のゲリラ雷雨は、全国でおよそ57,000回発生する予想です。全国の総発生回数がおよそ75,000回だった昨年よりもやや少なくなり、過去5年平均と比べるとほぼ同数となる見込みです。

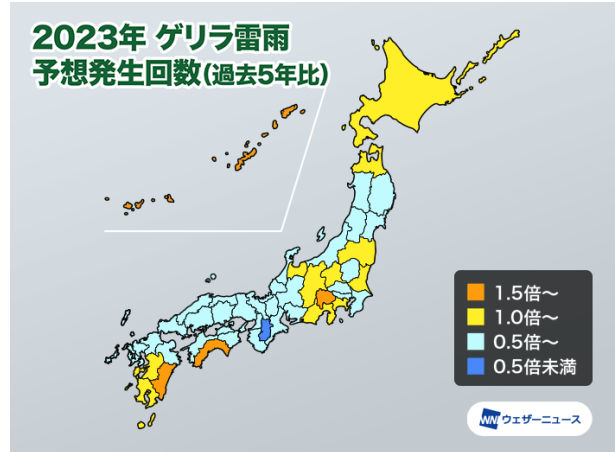
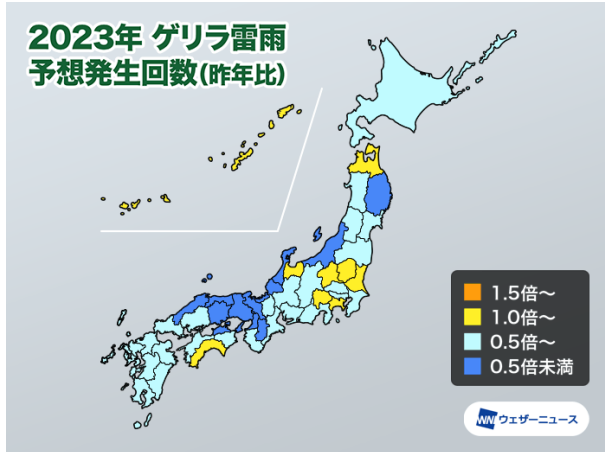
都道府県別にみると、昨年の半分～昨年並みの回数となるところが多くなっています。

東京都では680回(昨年比0.7倍/例年比0.8倍)、愛知県では790回(昨年比0.5倍/例年比0.7倍)、大阪府では240回(昨年比0.4倍/例年比0.6倍)となる予想です。北陸西部や西日本日本海側では発生回

数が昨年の半分以下となるところもありそうです(都道府県別の数字は表をご覧ください)。

今年は昨年と比べるとゲリラ雷雨の発生回数が少なくなるものの、例年並みの発生回数が予想されています。一度ゲリラ雷雨が発生すると、激しい雨による冠水や浸水、落雷による停電や交通機関への影響など様々な被害が懸念されます。油断せずに随時最新の雨情報をご確認ください。

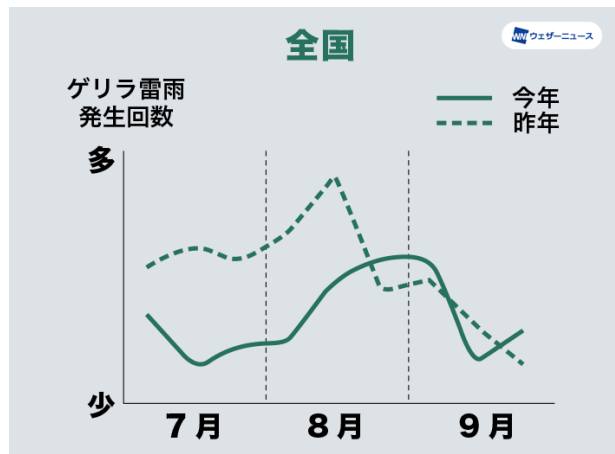




**<発生時期:8月中旬から9月上旬にかけて多く発生>**

ゲリラ雷雨は、気温の上昇や湿った空気が流れ込むことで、大気の状態が不安定になる時に発生しやすい現象です。今シーズンのゲリラ雷雨は、8月中旬から9月上旬にかけて発生しやすい見込みです。

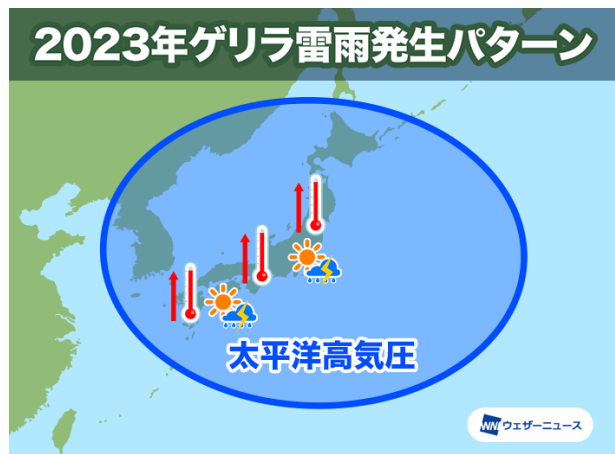
9月上旬にかけて日本付近は高気圧に覆われて晴れる日が多くなります。太平洋側や内陸部では湿った空気や地表面の昇温の影響を受けて、ゲリラ雷雨が発生しやすくなります。日差しが届いていても、天気の急変に注意が必要です。9月中旬以降は秋雨前線や台風の影響を受けて、突発的かつ局地的なゲリラ雷雨の発生は徐々に減少していき、ゲリラ雷雨のシーズンも終息に向かう見通しです。



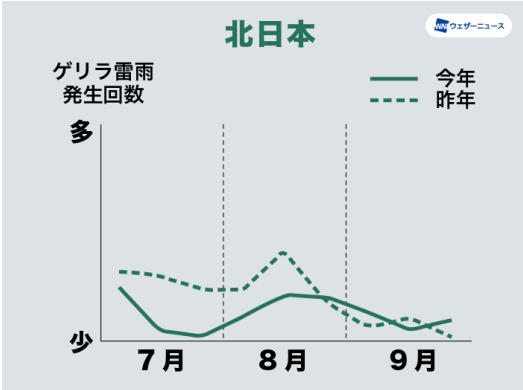
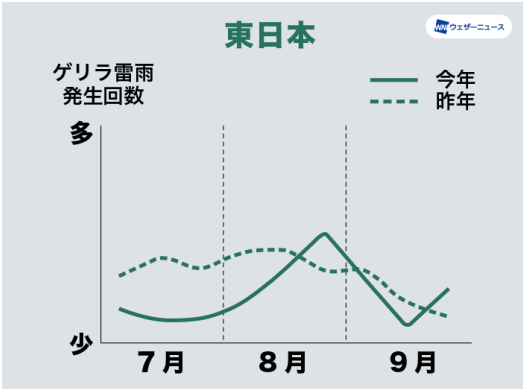
7～9月のゲリラ雷雨発生傾向

**<要因:気温の上昇と湿った空気の影響で発生するパターン>**

今シーズンは、日本付近は広く太平洋高気圧に覆われ、晴れて気温が上がりやすくなる見通しです。このため、気温の上昇と南から流れ込む湿った空気の影響でゲリラ雷雨が発生するパターンが多くなり、特に太平洋側や内陸部でゲリラ雷雨が発生しやすくなる予想です。



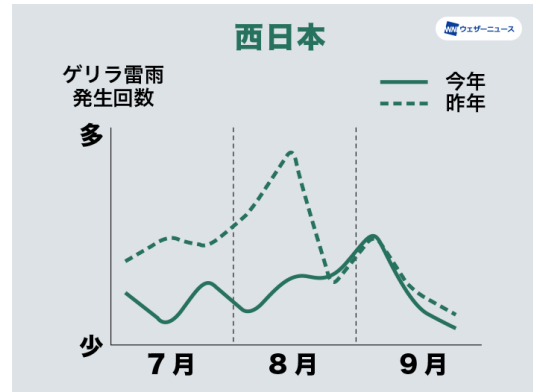
◆ エリア別のゲリラ雷雨傾向

<p>北 日 本</p>	<p>2023年シーズンの北日本のゲリラ雷雨の総発生回数は約12,000回で、昨年比0.8倍とやや少なくなる予想です。都道府県別にみると、昨年の半分～昨年並みの回数となる場所が多くなっています。発生ピークは8月中旬から9月上旬の見込みです。8月は気温の上昇の影響で大気の状態が不安定になり、ゲリラ雷雨が発生するパターンが多くなります。9月後半からは台風の影響が懸念されるほか、秋雨前線や移動性の高気圧の影響を受けやすくなるため、ゲリラ雷雨の発生回数は減少していきます。</p> <p>発生回数は昨年より少ないものの、例年並みの予想です。一度のゲリラ雷雨で様々な被害が懸念されるため、油断せずに最新の雨情報をご確認ください。</p>	 <p><b>北日本</b></p> <p>ゲリラ雷雨発生回数</p> <p>多</p> <p>少</p> <p>7月 8月 9月</p> <p>今年 (実線) 昨年 (点線)</p>
<p>東 日 本</p>	<p>2023年シーズンの東日本のゲリラ雷雨の総発生回数は約18,000回で、昨年比0.8倍とやや少なくなる予想です。都道府県別にみると、太平洋側では発生回数が昨年を上回る場所もあります。一方北陸では昨年の半分以下となる場所もありそうです。発生ピークは8月下旬の見込みです。</p> <p>梅雨明け後の7月下旬から、気温の上昇や暖かく湿った空気の影響で大気の状態が不安定になりやすく、ゲリラ雷雨の発生回数が増加します。9月後半からは台風の影響が懸念されるほか、秋雨前線や移動性の高気圧の影響を受けやすくなるため、ゲリラ雷雨の発生回数は減少していきます。</p> <p>発生回数は昨年より少ないものの、例年並みの予想です。一度のゲリラ雷雨で様々な被害が懸念されるため、油断せずに最新の雨情報をご確認ください。</p>	 <p><b>東日本</b></p> <p>ゲリラ雷雨発生回数</p> <p>多</p> <p>少</p> <p>7月 8月 9月</p> <p>今年 (実線) 昨年 (点線)</p>

西日本 2023年シーズンの西日本のゲリラ雷雨の総発生回数は約20,000回で、昨年比0.6倍で少なくなる予想です。都道府県別にみると、昨年の発生回数を下回る場所が多く、日本海側では昨年の半分以下となる場所もあります。発生ピークは8月中旬～9月上旬の見込みです。

梅雨明け後の7月下旬から、気温の上昇や暖かく湿った空気の影響で大気の状態が不安定になりやすく、ゲリラ雷雨の発生回数が増加します。9月後半からは台風の影響が懸念されるほか、秋雨前線や移動性の高気圧の影響を受けやすくなるため、ゲリラ雷雨の発生回数は減少していきます。

発生回数は昨年より少ないものの、例年並みの予想です。一度のゲリラ雷雨で様々な被害が懸念されるため、油断せずに最新の雨情報をご確認ください。



### ※1 「ゲリラ雷雨」について

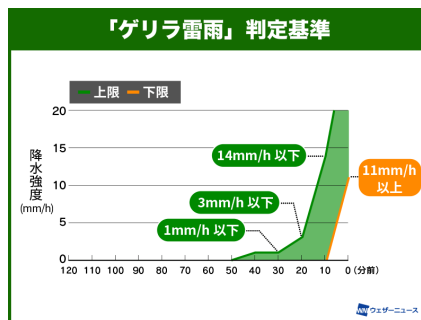
本プレスリリースでは、「局地的大雨」を指す言葉として「ゲリラ雷雨」という言葉を使用しています。一般あるいはメディアでよく使用されている「ゲリラ豪雨」と同義です。

### ※2 「ゲリラ雷雨」発生回数の求め方

「ゲリラ雷雨」をもたらす雨雲・雷雲は“突発的”かつ“局地的”に発達するのが特徴で、予測が難しいとされてきました。また、限られた数しか設置されていないアメダス(全国約1,300か所)では、全ての降雨を正確に観測することは困難です。そこで当社では、スマホアプリ「ウェザーニュース」のユーザーから寄せられた“ザーザー”以上の降雨報告(※3)と、その時の気象データの分析結果から、ユーザーがゲリラ雷雨と感じる雨の時間変化の基準値(表1)を求め、求めた基準値をもとに10km四方でゲリラ雷雨をカウントしています。

時間(分前)	閾値
0	11mm/h 以上
10	14mm/h 以下
20	3mm/h 以下
30～40	1mm/h 以下
50～120	0mm/h 以下

表1:「ゲリラ雷雨」判定基準



### ※3 降雨報告について

スマホアプリ「ウェザーニュース」を通し、“ポツポツ”、“パラパラ”、“サー”、“ザーザー”、“ゴオー”の5段階で報告されます。

**◆ 都道府県別のゲリラ雷雨傾向**

都道府県	2023 年				2022 年 (回)	過去 5 年平均 (回)
	発生回数 (回)	10km 四方ごとの 発生回数(回)	2022 年比(倍)	過去 5 年平均比(倍)		
北海道	4840	5	0.9	1.1	5446	4210
青森県	1020	10	1.4	1.5	743	700
秋田県	1050	9	0.7	0.9	1561	1150
岩手県	720	4	0.4	0.5	1940	1310
山形県	1070	11	0.8	1.0	1310	1040
宮城県	730	9	0.7	0.9	1004	820
福島県	2490	18	0.9	1.1	2674	2270
茨城県	1150	19	1.3	1.4	901	820
栃木県	1340	21	1.1	1.0	1183	1310
群馬県	1410	22	1.1	1.2	1300	1180
千葉県	560	10	0.6	0.8	953	730
東京都	680	38	0.7	0.8	1027	870
埼玉県	500	13	0.9	0.9	527	550
神奈川県	520	21	1.3	1.4	394	370
山梨県	1040	24	1.5	1.7	710	620
長野県	2400	18	0.9	1.3	2643	1810
静岡県	1620	21	1.0	1.2	1623	1380
愛知県	790	15	0.5	0.7	1488	1190
岐阜県	2010	20	0.7	0.9	2771	2190
三重県	950	17	0.5	0.7	1784	1300
新潟県	1240	9	0.5	0.6	2699	1970
富山県	1100	25	1.1	1.4	985	780
石川県	420	10	0.4	0.6	987	720
福井県	390	9	0.4	0.6	1034	680
滋賀県	480	12	0.5	0.7	953	730
京都府	520	12	0.4	0.5	1453	950
奈良県	360	10	0.3	0.4	1312	840
兵庫県	810	9	0.4	0.6	2098	1440
大阪府	240	12	0.4	0.6	569	370
和歌山県	720	15	0.5	0.8	1311	850
鳥取県	300	8	0.3	0.5	1097	600
島根県	540	8	0.3	0.5	1680	1070
岡山県	830	12	0.5	0.7	1840	1210
広島県	1170	14	0.6	0.8	1924	1500
山口県	900	14	0.6	0.9	1447	1040
香川県	210	9	0.4	0.6	495	340
徳島県	580	14	0.6	1.0	915	610
愛媛県	950	16	0.8	1.0	1210	910
高知県	1860	27	1.1	1.7	1622	1090
福岡県	790	15	0.5	0.8	1522	960
大分県	760	12	0.5	0.9	1449	840
佐賀県	320	14	0.5	0.8	615	390
長崎県	830	26	0.5	0.7	1547	1110
熊本県	1480	21	0.8	1.2	1887	1200
宮崎県	2170	30	1.0	1.6	2104	1400
鹿児島県	3150	47	1.0	1.4	3160	2280
沖縄県	7460	276	1.3	1.9	5783	4010
全国(合計)	57470	-	0.8	1.0	75680	55710

\* 本傾向は、ウェザーニューズの長期予報と類似年の過去データを元に、統計的に算出したものです。

\* 発生回数は 7 月 1 日～9 月 30 日の期間で算出しています。